

**「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画(第1版)」に対する
意見書**

項 目	記入欄
氏 名	公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン） 会長：末吉竹二郎（担当：前川聡）
住 所	〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル3階
ご 意 見 （法人その他の団体にあつては、その名称、代表者の氏名） （法人その他の団体にあつては、その主たる事務所の所在地）	P21 【意見】 目標である「沿岸域における生態系ネットワークの重要な拠点として、会場内の自然環境・生態系の保全回復に取り組む。」と、「取り組むべき内容」とが合致していない。生態系ネットワークを機能させるために、有識者・関連NGO、関係企業・団体等と定期的で透明性のある検討会を設置し、事業地および事業期間にとどまらない広域的かつ恒久的な保全策の検討と実現に向けた具体策に取り組むべきである。 【理由】 大阪湾は埋め立て等により99%の干潟が消失したが、今でも湿地環境が形成されれば多くの渡り鳥が飛来することが判明しており、大阪府の生物多様性ホットスポットAランクに指定されている。目標に掲げる生態系ネットワークの拠点を実現するためには、事業地内での短期的な取り組みだけでは不可能であり、事業地外である大阪湾沿岸も含め、それらの生態系の特性、生物の移動分散を考慮した、長期的なビジョンと保全計画の立案と実行が必要不可欠である。現在、事業主は事業用地が大阪市の所有でありかつ期間限定であることを理由に、こうした検討を避けているが、例え期間限定であっても関係自治体および関係者と、博覧会を契機とした目標（レガシー）の実現に向けた構想協議を牽引する役割と責任がある（当然、

	<p>事業者は事業地外・期間外の行動計画範囲についての実施主体とはならない。</p> <p>また、こうした協議は、取り扱う内容によるが、環境NGOを含み、できる限りオープンで透明性のあるものであるべきである。</p>
--	--

【提出先】 電子メールアドレス：ESMS-choutatsu@expo2025.or.jp

意見書に記載されている個人情報は、本件においてのみ使用し、それ以外には使用いたしません。